

『財団法人明治聖徳記念学会紀要』掲載講演録・論文の再録にあたつて

明治聖徳記念学会事務局

復刊第六十号より、『財団法人明治聖徳記念学会紀要』掲載の講演録・論文を再録する。

本号掲載の中野裕三論文（「明治聖徳記念学会」復活への軌跡）が明らかにした如く、大正元年に発足した「（財団法人）明治聖徳記念学会」は、昭和二十八年に至るまでに、一旦完全に終焉を迎えていた。その後、昭和六十三年に「加藤玄智博士記念学会」を母胎として再発足するにあたり、当時、常務理事に就任された上田賢治博士、そして上田博士の後を襲つて常務理事・理事長に就任された阪本是丸博士は、明治聖徳記念学会の理想的な在り方を、日本・日本文化全体を研究対象として重厚なる学術成果を挙げた「財団法人明治聖徳記念学会」に求めた。

昭和十八年十月、第六十卷の刊行を以つて幕を閉じた『財団法人明治聖徳記念学会紀要』を通読すると、当代一流の碩学による、皇室・神社と宗教・祭祀学・神道思想・他宗教（儒仏両教）・民俗学等の分野に関する、本質的な問題を平易に議論する理想的な論考を、数多確認することが出来る。

ここに、当時の論考を再録することは、今後の明治聖徳記念学会の更なる発展・展開を期する上で、『古事記』序文に示された「稽古照今」の精神を踏襲することになろうかと思考する。

学会会長に神社の宮司が就任し、事務局が神社に置かれている学会（神道系学術団体）は、本会が唯一無二であるか

と思われる。従つて、今後はより広く神社関係者の更なる入会も期待される。付け加えるに、本会の例会・シンポジウムには、これまで、研究者だけではなく大勢の一般の方々にも参加して頂いている。

）のような理由から、再録にあたり、読みやすさを優先し、下記の凡例に従うこととした。なお原文は、明治聖徳記念学会のホームページ（<http://meijiseitoku.org/search.htm>）においてPDF公開をしている。原文を確認される場合に参考して頂きたい。

初回にあたり、本会を象徴するテーマとして、明治天皇に関する一本の講演録を再録することとした。御精読をお願いする。

凡 例

- 一、仮名遣いは、現代仮名遣いに改めた。
- 一、章、段落を増やした。
- 一、旧漢字は、常用漢字に改めた。
- 一、難解な漢字で書かれた指示代名詞等は、平仮名に開いた。
- 一、難解な漢字には、ルビを振った。
- 一、引用文は、読み下し文に直した。
- 一、明らかな誤植は、修正した。
- 一、固有名詞には、「」で解説や一般的に膾炙している名称を加えた。和暦にも、同様に「」で西洋暦を加えた。
例、「東寺」「教王護国寺」、「日本紀」「日本書紀」